

I. 生涯学習推進計画策定にあたって

1. 本市の特徴

新城市は、平成17年10月に、旧新城市、旧鳳来町、旧作手村の3市町村の新設合併により誕生しました。人口51,504人、世帯数16,492世帯（平成21年3月1日現在）、面積は県土の約1割を占める499km²と、県下2番目の面積で、その83.5%を森林が占めるなど、山間区域と都市型区域で形成されています。

平坦部で市街地を形成し、都市的機能や工業団地の集積と都市近郊型農業が見られる新城地区、商工業の集積に併せて広大な山間地域で森林産業を創出してきた鳳来地区、山間地域で平均標高550mの高原性気候を活かした農業が盛んな作手地区が、それぞれの個性あふれる地域文化や伝統芸能を生みだし、本市の魅力となっています。

2. 計画策定の趣旨

合併以前の各市町村の生涯学習活動は、それぞれの地域に根付いた歴史・文化・自然を継承しながら、近年の科学技術の著しい進歩や少子・高齢化による人口構成の偏りなど、住民を取り巻く社会環境の変化に対応した生涯学習を展開してきました。

合併に伴い、新「新城市」として一体感のある生涯学習活動を通して、市民一人ひとりが“感動・創造・貢献の喜びを感じる環境づくり”そして、各地域と市全域が有機的に連携することによって、魅力的な学習活動が展開できる、総合的な学習環境をつくる必要があることから、この計画を策定するものです。

3. 計画の体系図

計画は、目標、方針、活動の柱からなります。具体的方針は「新城市生涯学習推進計画体系図（3ページ）」のとおりです。

4. 計画の期間

この計画の期間は、平成21年度（2009年）から平成30年度（2018年）までの10年間とします。なお、その間においては社会情勢の変化に応じた見直しを行うとともに、3年を目途に基本的方策の進捗状況の把握や活動内容の検討を行います。

II. 基本構想

1. 基本目標

21世紀は「心の時代」と言われ、金・物といったハード構築から、人と人の心のネットワークといったソフト構築こそが、新しい時代にふさわしい生涯学習計画と考えています。

そこで、この推進計画の策定において、生涯を通して元気に楽しく学び続けて生きるための具体的な活動に主眼をおき、「生きがい」「やりがい」のある「喜びの人生」となるよう、**市民が感動・創造・貢献の喜びを感じる環境づくり**を目標としました。

この推進計画が、市民一人ひとりの人生の幸せを少しでもサポートするものでありたいと願っています。

2. 推進方針

本市は、東三河の母なる川ともいふべき“豊川”の源流から中流域に広がる里山都市です。

日本の滝100選、日本の地質100選、にほんの里100選といった名勝・自然に恵まれ、その大地に古来より続く農業・林業・商業を営んできた人情味あふれる人々が暮らしています。

さらに、この自然と人々が織りなす国指定文化財の黒沢田楽・鳳来寺田楽をはじめ、長篠・設楽原古戦場、火おんどり・万灯、薪能、歌舞伎などの歴史と文化の華が咲き誇っています。

そこで、「人」「自然」「歴史と文化」を「新城の三宝」と呼び、この**新城の三宝を活かした市民活動の創出**を方針としました。

3. 活動の柱

人が喜びを体感する三要素を、「感動の喜び」「創造の喜び」「貢献の喜び」として、新城の三宝を活かした活動を展開することを**新城学びのキャンパス**と名づけ、「**生きがい活動**」「**地域活動**」「**里山活動**」「**文化活動**」を四つの大きな柱として、新城学びのキャンパスの構築を目指します。

新城市生涯学習推進計画体系図

【目標】

市民が感動・創造・貢献の喜びを感じる環境づくり



【方針】

新城の三宝（人・自然・歴史と文化）を活かした市民活動の創出



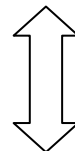
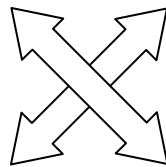
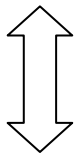
新 城 学 び の キ ャ ン パ ス

生きがい活動

- 人生の各過程に応じた生涯学習の推進
- 子育て支援体制の充実
- 生涯スポーツ活動の推進
- 生涯学習関連団体の育成・支援
- 生涯学習情報の収集・提供の充実

地域活動

- 地域の特性を活かした公民館活動の推進
- 若者を核とした地域活動の推進
- 幼保・小・中・高・大学と地域との連携活動の推進
- 地域の人材活用の仕組みとリーダーの発掘・養成
- 文化会館・図書館の有効活用



里山活動

- 自然に親しむ（親水・親林・親土）活動の推進
- 自然環境保護活動の推進
- 自然を活かしたスポーツ活動の推進
- 鳳来寺山自然科学博物館の有効活用

文化活動

- 地域の伝統・生活文化の保存・継承
- 市民文化活動の振興
- 新城まちなか博物館等の街の民間施設の拡充
- 設楽原歴史資料館・長篠城址史跡保存館・作手歴史民俗資料館の有効活用

